

重複畸形(二頭一體)児一實驗例ノ續報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30839

重複畸形(二頭一體)兒一實驗例ノ續報

京都 藤野 幸太郎

本編ハ金澤醫科大學十全會雜誌第二十九卷第四號ニ報告セシ實驗例ノ解剖的所見ト發生及ビ原因的觀察併ニ諸家報告例トノトノ比較ヲ記載セルモノナリ。

一、解剖的所見

(外觀的計測ハ前記載中ニアリ)

本例ニ於ケル頭部及ビ頸部上半部ハ各個體完全ニ獨立發育シ頸部下半ハ第一兒(左頭兒)第二兒(右頭兒)ハ共同ナリ、但シ頸椎ハ各個體ニ相當シテ獨立シ以下相分立スル事第五腰椎ニ及ブ薦椎ハ互ニ相癒着シテ單一トナル、殊ニ特異ナルハ共同ノ頸部内ニ第一兒、第二兒ノ胸腺、第一兒ノ右肺臟上半部、第二兒左肺臟ノ一部及ビ心臟ノ上半部ヲ包容スルコトナリ、胸腔及ビ腹腔ハ單一ニシテ其ノ容積ハ尋常生熟兒ニ比シテ大ナリ、胸腔ノ後壁ニハ兩兒脊柱突隆ス、第二兒脊柱ノ前緣ニハ第一胸椎以下横膈膜附着部ニ至ル間ニ強キ膜狀物起リ廣キ盲囊狀トナリ其ノ一部ハ第二兒食道ニ接着ス、以上ノ囊ニヨリ胸腔後部ハ自ラ左右ノ二部ニ分タル、ガ如キ觀ヲ呈ス。横膈膜ハ左側完全ニシテ胸腹兩腔ヲ區劃シ中ニ食道及ビ尿管ヲ通ズ、右側横膈膜ハ大部分缺損シ唯前壁ニ鎌狀ノ強韌ナル膜トシテ存在スルノミ、肝臓右半ノ大部此ノ缺損部ヲ通ジテ胸腔内ニ突入ス。

い、口腔。兩兒共ニ尋常ノ發育ヲ遂ゲ口蓋破裂及ビ其他ノ畸形等無シ。

ろ、食道。第一兒ノ食道ハ同兒氣管ノ後方ヲ下方ニ走リ横膈膜ヲ通ジ腹部ニ至リ獨立セル胃ニ連ル。第二兒ノ食道ハ第二兒氣管ノ後方ヲ下方ニ至リ右横膈膜缺損部ヲ通リテ相獨立セル胃ニ連ル、其ノ經過中前述盲囊膜狀物ノ一端

ト接着ス。

は、胃。第一兒ニ屬スル胃ハ腹部肝臓ノ下方ニアリ、胃底ト幽門ニ至ル長サ六糎、第二兒ノ胃ハ右側腹部ニアリ第二兒脊柱ヨリ右方ニ存シ胃底ヨリ幽門ニ至ル長サ四糎ナリ、其ノ發育程度ハ第一兒ノモノヨリハ遙ニ弱シ。

に、小腸。小腸ハ總テ腸間膜ヲ有シ第一兒、第二兒盲腸ニ連通スルマデ各獨立ス、但シ諸所相癒着ス。第一兒ニ屬スルモノハ幽門ヨリ約二糎ノ部(十二指腸部)ニ於テ輸膽管ノ開口部アリ、第二兒ニ屬スルモノハ輸膽管開口無ク幽門ヨリ約一糎下リタル部(十二指腸部)ニ於テ發育不全ニシテ萎縮シタル臍管ト認ムベキモノ存在連結スルヲ認ム、第一兒、第二兒共小腸ハ幽門ヨリ約二・五糎隔リタル部ニ於テ各腸管相癒着シ一ツノ太キ小腸管ヲ形成シ約四糎ニシテ相離レテ二腸管トナリ各獨立スル事約五糎ニシテ再ビ相癒着ス、其ノ癒着ハ約五糎ニシテ各腸管再ビ相分離シ幾回カノ回旋ノ後廻盲部ニ至リ大腸初部ニ連結ス、其ノ狀タルヤ宛モ子宮體ニ兩側喇叭管ノ連結スルガ如キ像(附圖第一圖ICトI)ヲ呈ス。

ほ、大腸。大腸初部ハ廻盲部ニ初マリ其ノ中ニハ胎糞ヲ多量ニ充滿セシメ(盲腸部)一種特異ノ囊狀(二—三糎)ヲ呈シ其ノ兩側ヨリ第一兒小腸、第二兒小腸ヲ受クル事前述ノ如シ、次デ急ニ狹小シテ上行シ(上行結腸)第二兒ノ胃ノ部ニ至リ屈曲シテ左方ニ横走シ(横行結腸)第一兒ノ胃ノ左下方ニ至リ下行シ(下行結腸)次デS字狀結腸トナリ漸次中央部ニ至リ膀胱ノ後方ヲ通り直腸トナリテ肛門ニ終ル事通常兒ニ於テ見ルガ如シ。

へ、肝臓。肝臓ハ單一ニシテ左葉、右葉ニ區分サレ左葉ハ長サ六糎、幅五・五糎、厚サ三糎ニシテ右葉ハ長サ六糎、幅五・二糎、厚サ二糎ナリ、左葉全部ト右葉ノ一部ハ腹部横膈膜下ニ存シ、右葉ノ大部(長サ四五、幅五・一)ハ右側横膈膜缺損部ヨリ胸部ニ突入ス、此ノ部ノ組織ハ萎縮スルヲ認ム。

膽囊ハ單一ニシテ輸膽管亦單一ナリ、之ハ前述ノ第一兒小腸ニ開口ス。

と、臍臓。完全ナル臍臓トシテ認ムベキモノ無ク唯第二兒胃ノ左後方ニ當リ長サ〇・七五糎、幅一・五糎弱ノ菲薄ナ

ル臍臓ト認ムベキ腺狀物アリ、之ヨリ細管ニヨリ前述第二兒小腸上部ニ連結ス。

ち、鼻孔、鼻腔、喉頭及ビ氣管。鼻孔、鼻腔、喉頭共ニ異常無シ畸形ヲ有ゼズ。氣管ハ各個體ニ相當シテ良ク發

育シ食道ノ前方ニ沿ヒ第一兒ノモノハ左上方ヨリ右下方ニ走り環狀軟骨ヨリ約四糎、第二兒ノモノハ右上方ヨリ左下方ニ走り環狀軟骨下約三・七糎ニシテ各左右ノ二枝ニ別レ直ニ各獨立セル左右ノ肺門ニ入ル畸形ヲ認メズ。

り、肺臓。第一兒ノ左肺臓ハ二葉ヨリ成リ發育尋常ニシテ右肺臓ハ三葉ヨリ成リ上葉ハ發育良ナレドモ以下發育

不良ナリ、上半部ハ頸部心臓ノ上部ニ存在シ下半部ハ心臓ノ後方ニ存在ス、左肺ハ全部胸腔中ニ存在ス。

第二兒ノ肺臓中、左肺臓ノ一部ハ心臓ノ上方頸部ニ存シ大部分ハ心臓ノ右方ニ存在シ二葉ヨリ成リ發育良ナラズ、右肺臓ハ胸腔中ニ存在スレドモ發育甚ダ不良ニシテ單ニ肺臓ノ性質ヲ備フルノミニシテ三葉ヨリナル。

ぬ、心臓。心臓ハ前部ニ存在スル心室部ト後部ニ存スル靜脈竇及ビ之ニ附隨セル四個ノ心耳（左右上心耳、左右

下心耳）トヨリ成ル。

前面、心室部ハ附圖ニ示スガ如キ不恰好ナル瓢狀ヲ呈シ其ノ殆ンド中央ニ存スル絞扼部ハ胸骨上緣ニ一致ス、之ヨリ以上ハ頸部ニ存シ以下ハ胸骨後面ニ存ス、今便宜ノ爲メ上記絞扼部ヨリ上部ヲ上心室、下部ヲ下心室ト稱ス、上心室前面ノ中央部ニ縱溝アリテ宛然同形ヲ爲セル左右ノ二部ニ區劃サル、其ノ左ナルヲ左上心室、右ナルヲ右上心室ト云フ。心室部ノ大サ（附圖11圖ニ圖示説明）左右上心室ノ前面中央ナル縱溝ノ頂點ヨリ下心室ノ下先端マデ四・七五糎、左上心室ノ頂點ヨリ下心室下先端マデ五糎、右上心室ノ頂點ヨリ下心室下先端マデ四・八糎、左右上心室總體ノ幅三四糎、下心室ノ幅三・一糎ヲ有ス。

左右上心室ハ全壁共筋層良ク發育シ内面ニ於テハ前記縱溝ニ一致シ兩室間中隔ヲ存ス、此ノ中隔ノ中央部ニハ卵圓形ノ孔アリテ二室相交通ス、兩室共内面肉柱ノ發育佳良ナリ、左上心室左上隅ヨリ完全ナル辨ヲ有スル一條ノ動脈管ヲ發ス、下方ニハ下心室ト通ジ茲ニ不完全辨ヲ具フ、右上心室右上隅ヨリ完全ナル辨ヲ有スル一條ノ動脈管ヲ發ス、

下方ニ於テハ不完全辨アリテ下心室ト相通ズ。

下心室ハ前壁、側壁、及ビ後壁(左後方)ノ一部ハ筋層強ク發育スレドモ後壁ノ大部分ハ筋層ヲ缺キ、靜脈竇ニ通ズ。茲ニ數條ノ強韌ナル膜樣腱索物緊張ス、之等ハ内面ニ於テ血液循環ノ際辨ノ代償ヲ爲スモノナルベシ、筋層ヲ有スル部ハ内面肉柱ノ發育佳良ナレドモ發育佳良ナル乳嘴筋及ビ室中隔ヲ有セズ、左後側壁ヨリ完全ナル辨ヲ有スル一條ノ大動脈管ヲ發ス。

靜脈竇ハ形態囊狀ニシテ大サ胡桃大ナリ、前方ハ上記下心室ト相交通シ前記膜樣腱索物ニヨリテ相繋サレ竇ノ上下ニハ左右各一對ノ心耳ヲ有シ、左右上心耳ノ前内方ヨリ左右上空靜脈ヲ受ケ、左右下心耳ノ前内方ヨリ左側ニ於テ下空靜脈、右側ニ於テ肝靜脈ヲ受ケ容ル。(附圖第III圖)

心囊。心囊ハ不完全ニシテ下心室ヲ被覆スルノミ其ノ下面ハ橫膈膜ニ側方ハ靜脈竇壁ニ堅ク癒着ス。

る、大動脈。大動脈ハ下心室ノ左後方ヨリ起リ左上心室ノ後方ニ上行シ次デ左後方ニ彎曲シ大動脈弓ヲ形成ス、大動脈弓ノ凸隆側ヨリ第一兒ニ屬スル右總頸動脈、左總頸動脈及ビ左鎖骨下動脈ヲ分出ス、凹陷側ヨリ左總頸動脈ト左鎖骨下動脈トノ間部ニ於テ左上心室ヨリ發スル動脈ヲ受ケ、次デ下行シ胸部大動脈トナリ橫膈膜ノ大動脈孔ヲ通ジテ腹部ニ至リ腹部大動脈トナリ第一兒ノ脊柱前面ヲ下行シ第四腰椎前面ニ至リ二條ノ總腸骨動脈ト中薦骨動脈トニ分ル、本動脈ノ經過中大小多數ノ體壁枝及ビ内臟枝ヲ分岐ス、而シテ總腸骨動脈ヨリ發スル下腹動脈ヨリハ各臍動脈ヲ出シ膀胱ノ側壁ニ沿ヒ上行シ前腹壁ヲ通ジテ臍輪ニ至リ臍帶中ヲ胎盤ニ達ス。

を、右上心室ノ右上隅ヨリ起始セル動脈管ハ起根部ヨリ一條ノ肺動脈(後別シテ第二兒左右肺臟ニ入ル)ヲ分岐シ次デ第二兒ノ左總頸動脈、右總頸動脈ヲ別チ後、右鎖骨下動脈トナル。

わ、左上心室。左上隅ヨリ出ヅル動脈管ハ甚ダ太クシテ長サ二糎ヲ有シ下方ニ凸側ヲ向ケタル弓狀ヲ呈シ左方ニ走リ前記大動脈弓ノ凹陷側ニ連ル、此ノ動脈ノ凸側ヨリ第一兒ニ屬スル二條ノ肺動脈ヲ出ス。

か、上空静脈。本静脈ハ左右ノ二大幹ヲ有シ左上空静脈ハ左鎖骨下静脈ト第一兒ノ左右總頸静脈トノ會合ヲ以テ起始シ附近諸静脈ヲ合シ一本ノ大幹トナリ静脈竇ノ上方ニ於テ左上心耳ノ前内方ヨリ入ル。

右上空静脈ハ右鎖骨下静脈ト第二兒左右總頸静脈トノ會合ニヨリ起リ大幹ヲ成シ静脈竇ノ上方ニ於テ右上心耳ノ前内方ヨリ左上空静脈ト相並ンデ同竇内ニ入ル。

よ、下空静脈。下空静脈ハ一條ニシテ第一兒脊柱ノ左側ニ存シ下半身ノ環流血ヲ受ケ肝臓ノ後側ヲ通過シ静脈竇ノ下方ニ於テ左下心耳ノ前内方ヨリ同竇内ニ入ル。

た、肝静脈。肝静脈ハ下空静脈ニ入ラズシテ右下心耳ノ前内方ヨリ直接ニ静脈竇内ニ入ル。

れ、脾臓。脾臓ハ單一ニシテ第一兒ノ胃ノ左後方ニ存シ長サ四糎、幅二・五糎、厚サ一・一糎ニシテ形態異常ヲ認メズ。

そ、腎臓。腎臓ハ左右ノ一對ニシテ左腎ハ第一兒脊柱ノ左側ニアリ長サ三・五糎、幅二・五糎、厚サ二・五糎ナリ、右腎ハ第二兒脊柱ノ右側ニ位シ長サ五糎、幅二糎、厚サ二糎ニシテ左腎ト同高位置尋常ナリ。

膀胱、尿道、陰莖異常無シ。

つ、陰囊。位置尋常、畸形無シト雖モ内ニ辜丸及ビ副辜丸ヲ有セズ。

ね、辜丸及ビ副辜丸。左側ノモノハ腹腔内鼠蹊管ニ近ク存在シ橢圓形ニテ長サ二糎、幅〇・三糎ヲ有シ表面滑澤ナラズ。右側ノモノハ大部分腹腔内ニ存シ其ノ一端鼠蹊管内ニ陥入ス。左ノモノト略同大ナリ。

な、甲状腺。第一兒、第二兒共ニ位置形態ニ異常無シ。

ら、胸腺。胸腺ハ通常兒ニ於ケルヨリモ特異ニシテ位置ハ頸部内ニ存シ第一兒左葉ハ同兒甲状腺ノ左側ニ、第二兒ノ右葉ハ同兒甲状腺ノ右側ニ存シ第一兒右葉ト第二兒左葉トハ互ニ相密接シテ心臓ノ上部ニ存在ス、各腺ノ大サハ長サ二糎、幅一・二五糎、厚サ〇・五糎内外ニシテ其ノ重量二乃至三瓦ヲ算ス。

む、副腎。副腎ハ左右一對アリ位置尋常ニシテ左副腎ハ長サ一・五糎、幅一糎ヲ有シ、右副腎ハ長サ二・二五糎、幅

一・五糎ヲ有ス、左ニ比シ遙ニ大ナリ。

以上總テ余ノ行ヒタル剖見ハ主トシテ畸形兒標本ノ損傷セザラン事ヲ顧慮シタルヲ以テ唯著シキ變化ヲ來シタル部
ノ大略ヲ記述シタルニ過ギズ。

二、本畸形兒ノ發生並ニ原因的觀察

重複畸形兒ノ發生及ビ原因ニ就テハ數千年前ヨリ諸家ノ研鑽ニヨリ著シキ進步ヲ來シ其ノ學說數多アリト雖モ其ノ
根本的明確ナル證明ヲ與ヘラレタルハ未ダ之ヲ聽カズ。

余ノ實驗例ニ於テモ其ノ發生及ビ原因ヲ考究スルハ實ニ至難ノ事ナリ。

一、遺傳的關係。本例ニ於テハ證明シ得ズ。

二、兩親ノ疾病。本例ニ於テハ特ニ認ムベキモノ無シ。

三、母體ノ外傷。本畸形兒胎生初期ニ於テ母體ハ外傷ヲ受ケタル事無シ。

四、母體ノ精神感動。本畸形兒胎生初期ニ於テ母體ハ著シキ精神感動ヲ起シタル事無シ。

五、本畸形兒ハ一卵性ナリ。

蓋シ重複畸形兒ノ發生及ビ原因ニ關シテ現今信ゼラル、所ノシユルツエ・ヘルトウィヒ氏及ビ其他多クノ胎生學者ノ
說ク所ニヨレバ『一卵性雙胎ノ形成ニ就テハ或ル不明ノ原因ニヨリテ一卵ノ一胚胞内ニ重複セル二胚阜ヲ生ズル事、
即チ二個ノ胎兒原基ヲ一卵中ニ生ジ、之ガ發育シテ一卵性雙胎ヲ生ズト、而シテ此ノ二胚阜ノ互ニ相密接シテ發育ス
ルヤ兩者ノ分離不全(Mangelhaft Trennung)ガ重複畸形ヲ招來スルモノニシテ各胚阜互ニ相離ル、事相遠キ時ハ完全
分離ヲ行ヒ一卵性雙胎ヲ作り、兩者互ニ相密接セバ分離不全ヲ來シ重複畸形兒ヲ現出スベシ、即チ一胚胞内ニ於ケル

本例ノ心臓ハ上述ノ如ク通常兒ノ心臓トハ大イニ趣ヲ異ニシ殊ニ前部心室部及ビ後部靜

本畸形兒胎生末期ニ於ケル血液循環ノ想像。

單一ナル臍靜脈中ヲ流ル、血液ハ臍輪ヲ經テ内部肝臟ノ附近ニ至リ二分シ一部ハ下空靜脈ニ入り靜脈血ニ合シテ靜脈竇内ニ流入シ、他ノ一部ハ肝臟ニ入り肝動脈及ビ門脈ヨリ來ル血液ト合シ肝靜脈内ニ入り下空靜脈ニ入ラズシテ直接ニ靜脈竇内ニ入ル、而シテ上部ヨリ歸流スル左右上空靜脈中ノ血液ト合シ靜脈竇及ビ之ニ附隨スル四個ノ心耳ノ收縮ト心室ノ擴張ニヨル陰壓トノ關係ニヨリ下心室ニ流入ス、下心室ヨリハ之等血液流入ノ瞬間ニ於テ左右上心室ニ前

述辨孔ヲ通ジテ血液流出シ三室ハ殆ンド同時ニ血液ヲ以テ充滿スルニ至ル、此ノ充滿シタル血液ハ室ノ共同收縮ニヨリ下心室ヨリハ大動脈管ニ左右上心室ヨリハ上記各動脈管ニ輸血ス、而シテ左上心室ヨリ出デタル血液ノ一部ハ該動脈管ノ中央部ニ於テ分岐スル第一兒ニ屬スル肺動脈中ニ流入シ大部ハ大動脈弓中ノ血液ニ合ス、右上心室ヨリ出デタル血液ノ一部ハ該動脈管ノ起根部ニアル第二兒ニ屬スル肺動脈中ニ流入シ其ノ大部ハ第二兒ニ屬スル左右總頸動脈及ビ右鎖骨下動脈中ニ流入ス、大動脈中ヲ流ル、血液ハ心臟ヲ始メ次第第一兒ニ屬スル右左總頸動脈及ビ左鎖骨下動脈中ニ流入スルハ勿論左上心室ヨリ發スル動脈中ノ血液ヲ弓部ニテ受ケ以下胸部大動脈、腹部大動脈中ヲ流レ其ノ經過中大小種々ノ體壁枝及ビ内臟枝中ニ流入シ最後ニ左右下腹動脈ヲ經テ各臍動脈中ニ入り胎盤ニ歸流スルモノト下半身ヲ養ヒタル後下空靜脈中ニ集リ臍靜脈血ト合シ動靜脈混合血トナリ胎兒身體中ヲ循環セシモノト想像セラル。

三、諸家ノ報告例トノ比較 (頭、頸部、上肢、下肢ノ關係ハ再述セズ)

第 一 表 (循環器ノ關係)

報告者 氏 名	I.	II.	III.	IV.	V.	VI.	VII.	VIII.	IX.	X.
木下正中氏	1	2	1	1	1	1	2	2	2	藤野幸太郎 (自家實驗例)
大村秀誠氏		胸腔内 中央部	胸腔内 中央部	Holz	Lopold	Hectorich Nickes	Bajermann Kobert Meyer	W. Weibel	Ileberle	頸部(下半ノ中央部 ニ至ル(胸骨後部)
心臓ノ 位置	殆ソF正常	胸腔内 中央部	胸腔内 中央部	—	—	—	—	—	—	心臓前部(心室部)ハ 不倍好ナル孤狀ヲ呈 シ基底ヲ上ニ向ク、 心臓後部(靜脈竇部) ハ囊狀ヲ呈シ下心室 ノ後方ニ附著ス
心臓ノ 形態	尋 常	—	ハート形	—	—	—	—	—	—	

心臓ノ状態	尋常	重複	尋常	—	—	前房四個癒合ス	—	—	—	心臓ノ完全ニシテ中ノ心室ヲ包ミ上ノ心室ヲ包ム	心臓ノ完全ニシテ中ノ心室ヲ包ミ上ノ心室ヲ包ム	心臓ノ完全ニシテ中ノ心室ヲ包ミ上ノ心室ヲ包ム
心臓ノ動脈ノ關係	尋常	重複	上行大動脈ノ心基部ノ方ヨリ出ツ	二條ノ大動脈ノ肺動脈	重複	二條ノ大動脈ノ肺動脈ノ大動脈	重複	—	重複	1. 左心室ノ動脈管ヨリ出ツ 2. 右心室ノ動脈管ヨリ出ツ 3. 下大動脈ノ動脈管ヨリ出ツ 4. 肝静脈ノ静脈管ヨリ入ル	1. 左心室ノ動脈管ヨリ出ツ 2. 右心室ノ動脈管ヨリ出ツ 3. 下大動脈ノ動脈管ヨリ出ツ 4. 肝静脈ノ静脈管ヨリ入ル	1. 左心室ノ動脈管ヨリ出ツ 2. 右心室ノ動脈管ヨリ出ツ 3. 下大動脈ノ動脈管ヨリ出ツ 4. 肝静脈ノ静脈管ヨリ入ル
静脈ノ關係	尋常	重複	—	重複	重複	—	重複	—	重複	1. 左上空静脈ノ静脈管ヨリ入ル 2. 右上空静脈ノ静脈管ヨリ入ル 3. 下空静脈ノ静脈管ヨリ入ル 4. 肝静脈ノ静脈管ヨリ入ル	1. 左上空静脈ノ静脈管ヨリ入ル 2. 右上空静脈ノ静脈管ヨリ入ル 3. 下空静脈ノ静脈管ヨリ入ル 4. 肝静脈ノ静脈管ヨリ入ル	1. 左上空静脈ノ静脈管ヨリ入ル 2. 右上空静脈ノ静脈管ヨリ入ル 3. 下空静脈ノ静脈管ヨリ入ル 4. 肝静脈ノ静脈管ヨリ入ル

第 二 表 (脊柱及其他ノ關係)

報告者氏名	I. 木下正中	II. 大村秀敏	III. 柏原、村尾	VI. Holz	V. Leopold	VI. Heinrich Nicks	VII. Bokelmann Robert meyer	VIII. W. Weibel	IX. Heberle	X. W. M. Bench	XI. 藤野幸太郎 (自家實驗例)
脊柱分立ノ重複ノ状態	尾間骨ノ重複ス	第七頸椎ノ重複ス	第五腰椎ノ重複ス	薦椎ノ重複ス	全脊椎分立ノ重複ス	全脊椎重複ス	重複ス	薦椎ノ重複ス	尾間骨ノ重複ス	第五腰椎ノ重複ス	第五腰椎ノ重複ス
氣管數	2	2	2	2	—	2	2	2	2	2	2
肺臟數	4	4	4	2	2 (但シ葉ハ四葉ヨリ云フ)	4	重複	—	重複	—	4
横隔膜	尋常	右側ニ缺損アリ	右側ニ缺損アリ	—	—	—	—	—	右側ニ缺損アリ	—	右側ニ缺損アリ

食道數	2	2	2	2	—	2	2	2	—	2
胃ノ數	2	2	2	2	—	2	2	2	—	2
小腸	2	—	2	1	—	—	腸管吻合	十二指腸以下單一	—	2
肝臟囊	—	1 (單一)	1 (單一)	—	—	重複、狹窄、腸管、腹膜癒着	肝臟單一膽囊2	肝臟單一膽囊2	—	肝臟單一膽囊單一
脾臟數	1	1	1	—	—	1	—	2	—	1
脾臟數	1	1	1	—	—	1	—	1	—	1
腎臟數	2	2	2	—	—	1	—	—	—	2
副腎數	2	2	2	—	—	缺損	—	—	—	2
生殖器	單一	單一	單一	—	—	單一	—	—	—	單一

以上ニ表ニ示ス所ニヨリ其ノ關係ヲ案ズルニ總テノ例ニ於テ脊柱ハ大部分分立シ重複スルヲ常トシ、全脊椎分立、重複スルモノ最モ多ク次ギニ第五腰椎マデ分立、重複スルモノ多クシテ頸椎ノミ分立、重複スルモノハ少ナシ。

心臟ハ重複セル例少ナカラズト雖モ單一ナルモノ最モ多シ單一心臟ヲ有スルモノハ其ノ形態ニ變形ヲ呈シ、多クハ三室ヨリ成リ基底ヨリ動脈ヲ出シ尙他室ヨリ大動脈ヲ出スモノ、如シ、自家實驗例モ此ノ形態ヲ取リタルモノニシテ他例ニ於テ見ルガ如キ心房ヲ有セズシテ之ニ代フルニ靜脈竇ヲ有ス、從ツテ血管ノ關係モ亦複雑トナルヲ免レズ、肺臟ハ概ネ重複ヲ示シ重複セザルモノハ其ノ葉ニ於テ造構重複ノ關係ニアルガ如シ、消化器ニ於テモ通常重複ヲ示シ、胃及ビ十二指腸ハ重複ス、其他ノ小腸ニ於テハ殆ンド總テノ例ニ於テ相吻合スルモノ、如シ、大腸ハ單一ニシテS字狀結腸、直腸モ亦單一ナルモノ多シ、肝臟ハ單一ナルモノ多シト雖モ亦重複例モ少ナカラズ、單一ナルモノハ重複癒合ノ型ヲ示セルカ或ハ容積甚ダ大ナリ、膽囊ハ單一ナルモノ多シト雖モ肝臟單一ノ場合膽囊二個ヲ有スル例ノ報告少

ナシトセス、脾臓ハ概ネ單一ニシテ泌尿生殖器亦單一ナル例多シ。

横膈膜ハ一部缺損セル例ノ記載多ク殊ニ其ノ缺損ハ右側ニ存ス、自家實驗例ニ於テモ然リトス。

附 圖

第一圖 自家實驗例ニ於ケル内臟剖見圖。

第二圖 自家實驗例ニ於ケル心臟前部(心室部)ノ圖示。

第三圖 自家實驗例ニ於ケル靜脈竇(心臟後部)ノ圖示。

第一圖ノ符號説明

- | | | |
|---------------------------|-------------------------------------|-------------------------|
| 1. G ハ心臟 | 2. Ar ハ大動脈弓 | 3. A ハ動脈管(左右上心室ヨリ出ヅル動脈) |
| 4. a ハ總頸動脈 | 5. t ハ胸腺 | 6. U ハ氣管 |
| 7. P ハ肺臟 | 8. H ハ肝臟(他ノ臟器検査ノ目的ヲ以テ特ニ左ニ舉上シタルモノナリ) | |
| 9. S ハ靜脈竇壁ノ一部 | 10. G ハ第壹兒及ビ第貳兒ノ胃 | 11. De ハ輸膽管 |
| 12. Du ハ小腸初部(十二指腸部) | 13. I ハ小腸終部(廻腸部) | 14. IC ハ大腸初部(盲腸部) |
| 15. Co ハ上行結腸(盲眞ノ都合上位置ヲ變ス) | 16. CT ハ横行結腸(盲眞ノ都合上位置ヲ變ス) | 17. u ハ臍帶 |

引 用 文 獻

(249)

- 1) 木下正中氏、複體畸形殊ニ雙頭胸腹及ビ腰部癒着性畸胎、東京醫事新誌、一九〇二首ノ一、一九〇三首ノ一、一九〇四首ノ一。 2) 大村秀敏氏、二頭一體兒「アモンストラチン」、東京醫事新誌、九七四ノ一三。 3) 柏原、村尾兩氏、頭頭端部重複體、京都帝國大學產科同窓會々誌第三號。 4) Holz, Diecephalus. Central Blatt für Gynäkology. No. 14 P. 324. 1901. 5) Leopold, Über einen Diecephalus Dibrachius Central Blatt für Gynäkology. Nr. 44. P. 1315. 1904. 6) Heinrich, Nickres, Diecephalus Dibrachius. Central Blatt für Gynäkology. Nr. 45 P. 1365. 1904. 7) Bokelmann, Robert, Meyer, Diecephalus Dibrachius Central Blatt für Gynäkology. Nr. 1 P. 33 Nr. 2 P. 59 1906. 8) W.

原 著 藤野 重親畸形(二頭一體)兒一實驗例ノ續報

— 四六 —

Weibel, Diecephalus. Central Blatt für Gynäkology. Nr. 51. P. 910. 1915. 9) Heberle, Diecephalus tribrachius Central Blatt für Gynäkology. Nr. 37 P. 1224. 1912. 10) W. M. Beach, Derodidynus (Diecephalus) The Journal of the American medical Association. 76 : P. 1748, June. 18. 1921.

本例ノ剖檢ニ際シ京都府立醫科大學教授島田吉三郎博士ト京都帝國大學醫學部内海元一郎博士トノ兩氏ノ特ニ御懇篤ナル指導ヲ賜ハリタル事ヲ感謝シ、尙組織標本檢査ニ便宜ヲ與ヘラレタル(京都帝國大學醫學部病理學教室)尹醫學士ニ感謝ス。(完)

附 記 本畸形兒ヲ分娩シタル母體ハ目下頗ル健全ニシテ大正十三年八月第二回目ノ分娩ヲ爲シタルガ生兒ハ女兒ニシテ何等ノ畸形ヲ伴ハズ發育

佳良ナリ。(雙體ニ非ズ)

圖 一 第

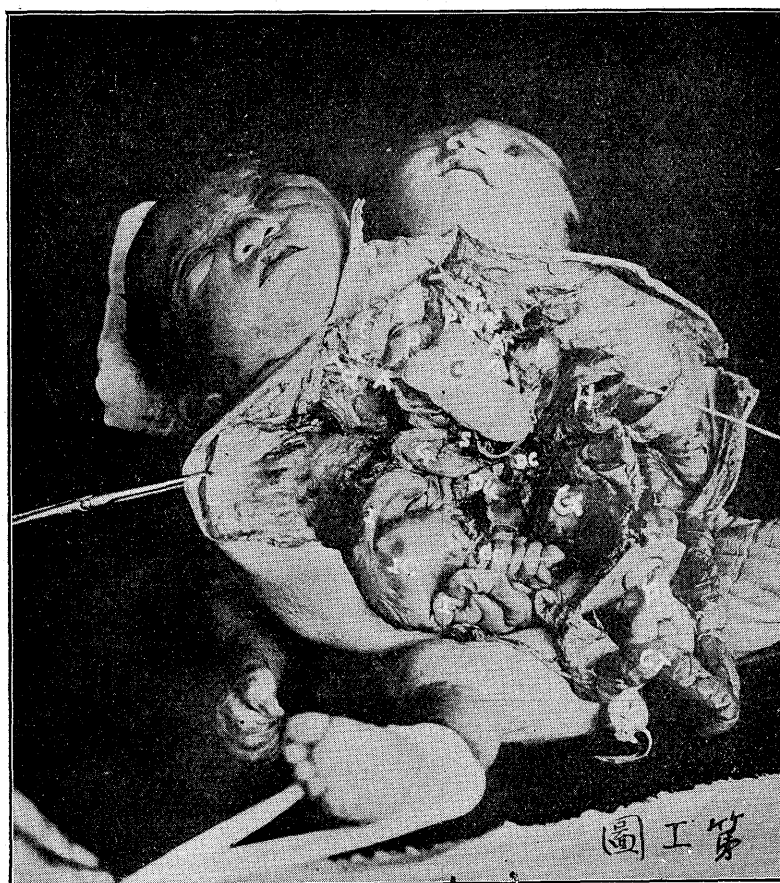


圖 三 第

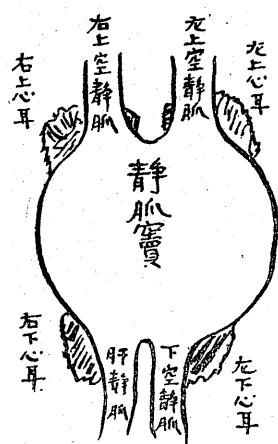


圖 二 第

